令和７年９月２１日

令和７年度 都川水の里公園・稲作体験講座【第５回】

第５回の活動は、９月７日に稲刈りしおだ架けして自然乾燥した稲穂の脱穀作業を、１１組４１人の方が行いました。今年も厳しい残暑の下での作業となりました。

初めに、事務局から脱穀作業の方法と脱穀道具の歴史について説明がありました。脱穀は稲作体験の中で最も危険を伴う作業のため、脱穀作業に潜む危険を事前に知り、事故防止対策を講ずるＫＹ（危険予知）活動を行いました。

その後、田んぼに移動しておだ架けした稲を脱穀の場所まで運びます。おだに沿って参加者が並び、バケツリレー方式で近くの園路まで稲を運搬しました。おだ架けの資材は、おだ脚は園路まで運んで束ねて置き、おだ竿は倉庫まで運びました。

脱穀とは、乾燥した稲穂から稲籾を落とす作業のこと。江戸時代は「こぎ箸」、「千歯こぎ」という農機具、明治時代になると「足踏み式脱穀機」（明治４３年発明）、現代は「ハーベスター（自動脱穀機）」、コンバインを使って脱穀を行っています。

今回は、都小学校からお借りした「千歯こぎ」と「足踏み式脱穀機」、「こぎ箸」そして体験棟所蔵の「ハーベスター」を使い脱穀作業を体験しました。

「こぎ箸」は竹を箸のようにした道具で近世前期まで使われていました。片手でこぎ箸をもち、間に穂先を挟んで籾を扱き落とします。子どもの小さな手では、あまり力が入らず難しかったようです。

「千歯こぎ」は、櫛状に並べられた鉄の歯に稲穂を通し、籾を引っ掛けて分離させる道具です。稲穂を歯に通して引っ張るにはけっこうな力が必要なので、子どもたちには大変な作業に見えました。

「足踏み式脱穀」は、逆Ｖ字型の針金が沢山付いた円筒（こぎ胴）を足で踏んで回転させることによって、稲穂を叩き穂先から籾を落とす道具です。馴れると子どもで楽に脱穀作業ができ、「ガーコン、ガーコン」という音も面白く、子どもたちは何回も体験していました。

「ハーベスター」は、脱穀と選別までの作業が自動化したとても効率の良い機械です。投入口に稲を入れて後は機械が脱穀し籾とわら屑を送風機で選別してくれます。稲穂を運ぶチェーンに手を挟まれないよう細心の注意が必要です。

参加者とスタッフの共同作業によって１１時前には、脱穀を終えることができました。今年も猛暑による高温障害の影響を受けましたが、一昨年より収穫量は減少したものの昨年より少し多くなり、ハーベスター袋に約７袋でした。

残暑厳しいなかでの作業、受講者の皆様お疲れさまでした。

おだから稲を外して運ぶ	同左
おだから稲を外して運ぶ	同左
稲束を脱穀場所まで運ぶ	同左
おだの片付け	同左

こぎ箸による脱穀

同左

千歯こぎによる脱穀

同左

千歯こぎによる脱穀

同左

足踏み式脱穀機による脱穀

同左

足踏み式脱穀機による脱穀

同左

ハーベスターによる脱穀

同左

ハーベスターによる脱穀

脱穀後の稲わらを束ねる

籾袋を運ぶ

収穫した籾米＝約７袋